

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回この気仙沼市大島の被災地ボランティアを通して、普段のニュースや新聞では知ることができない、被災地の現状をより深く知ることができました。現地に直接行くことで、津波の凄まじさ、二次災害による被害の酷さを実感しました。

今回のボランティアは予想とは反した、海岸掃除や草刈りが活動内容でしたが、それでも私たちには小さなことでもやれる事、やるべき事があることを知りました。また、現地の方達の話の聞いたり、触れあうことで、現地の方達の思い、悲しみや苦しみがわかりました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のように被災地のボランティアを継続すると共に、東北の商品を買ったり、東北に旅行へ行ったりなどして、少しでも復興に繋がるようなことをしていくべきだと思います。

私は、ボランティアを継続するとともに、今回のボランティアで感じたこと学んだことなどを多くの人に知ってもらえる機会を作りたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

上記で述べたように、より多くの人に被災地の現状、私たちが感じたこと学んだことを知ってもらえる機会を、学祭で写真展を開くなどしていく。また第1クール、第2クールの参加者全員が集まって活動する。あるいは、他大の被災地ボランティア経験者で集まり、ひとつの大きなイベントを開くなどを思い付きました。

4. 今回、企画していただきました浅野代表に、一言お願いします。

今回の気仙沼市大島のボランティアという貴重な企画を立ててくださり本当にありがとうございました。今回のボランティアは、私にとって人生初のボランティア参加であったが、とても遣り甲斐があったし、現地の方達と触れあうことも出来、とても充実していました。改めて考えさせられることがたくさんあり、東日本大震災は忘れてはいけないものだ改めて思いました。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(文) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティアは自分にとって初めてのボランティアでした。それもあり、被災地ボランティアということもあって少し不安でした。しかし、同じボランティア仲間や地元の方々との交流もありとても楽しく、自発的に活動することができました。

被災地ボランティアというと瓦礫撤去が頭に思い浮かんでいましたが、想像していたとは違って今回は海岸清掃や雑草刈りといったあまり負担のない作業が中心でした。でもこのようなささいな作業でも地元の方々にとってはありがたいことなんだと感ずることができました。そして大島は復興がかなり進んでいることも実感することができました。テレビではわからないことが肌で感じられるのもボランティアの大きな特徴なのだと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

おそらく、今後被災地ボランティアの数は減っていくと思います。今回私たちが経験したことを友人に伝えて少しでも多くの人に被災地へ関心をむけるようにすべきだと思います。そして自分自身も次は違うボランティアをすることが大事だと思います。ワンランク上のレベルの活動をすべきだと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回、信行寺さんが「被災地へ旅行しに行くのも支援のひとつ」とおっしゃっていたのが印象的でした。私は旅行サークルに入っているので、サークル仲間と一緒に被災地支援旅行を組むのも一つの支援方法かなと思います。もちろんサークル仲間だけでなく、友達や家族で東北旅行するのも手です。大島へは観光としてもう一度行きたいと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

普通、ボランティア活動するには個人の資金が必要です。それを今回は負担してください、参加しやすい環境を提供して下さってありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(総合政策) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今年の5月にボランティア活動に参加したことに引き続き、今回は2回目となりました。前回と同じ場所なので、この4月間の変化を感じつつ、ボランティアの意味を改めて考えました。

同じ海岸清掃でも前回では、津波によって流された家の瓦礫を発見しました。今回ではゴミを拾うことが活動の中心となり、被災から「復興」するよりは今の環境をよりきれいになることが目標としていました。「大きなことをするのではなく、小さいことも必要だ」この小さいこともまだまだボランティアの力を必要とされている。

また、「風化」の危機感を感じました。まだ早いですが、震災の映像を多く見えるようになった今、どうやってこの記憶を引きつづけるのか、私たちに責任を感じました。被災地のイメージは、被災地に来る前に、メディアによって作られたことが多いです。しかし、現場を自分の肌で感じることによって、記憶に深く残すことができます。そのためでも忘れないように、多くの人に覚えておく必要があると感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

当地の住民の話によると、これからの大島はただの独島でなくなります。今の交通手段は船が必要としているが、これから橋を作る予定があるので、東北の一連の観光になる見通しです。このためいち早く観光客を受け入れる体制を作らなければいけないと感じました。私たちボランティアができることは、直接復興に労働によること以外に、広報や宣伝ができるだと考えています。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

被災地のことを宣伝するために、私たち学生ができることは学校で写真展を開きたいです。特に文化祭を使って、校内の人だけではなく、社会人および一般の人でも見てもらいたいです。本当の被災地は、私たちの目で確かめてきました。「多くの人に来てもらいたい」この生の声を多くの人に伝えていきたいです。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

今回貴重な経験を得られることができました。これからの学業生活に役に立ちたいと考えています。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティアで気仙沼大島の現状を知ることができました。それは、がれきが減ってきている、だけじゃなくて、島の内部事情や、島民の不安、プロジェクトに賭ける想いなど様々でした。このようなことから私が思ったことは、前向きに物事を考えていくっていうのは難しいけど素晴らしいということです。このボランティアでできた繋がりを私は大事にしていきたいです。さらに私が関わった人たちにもこの繋がりを大切にしてもらいたいです。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

まず今回自分が知ったこと、感じたことを周りに伝えていきたいです。それはどんな形でも。それで少しでも周りの人たちが被災地にいい意味で興味を持ってくれたら嬉しいです。そして私は上にも書きましたが、ここでできた繋がりを大事にしていきたいです。大島の方々、信行寺の方々、仲良くなった中大生との繋がりで。またこのメンバーで集まることはないかもしれないけど、こういった繋がりから始まる何かがあるのではないのでしょうか。あとは大島に現状を常に知ってほしいので、ボランティアでも旅行でも何でもいいので向こうを訪れたいと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

私たちが最終日に考えた案では、再び図書館の下で写真展を開いたり、ペデ下で被災地支援の呼びかけを行ったり、学祭や生協でボランティア団体のブースを作って被災地復興支援を行うなどが挙げられました。あとは大島の人にどんな支援が必要なのか聞いてみたところ、もう片付けは終わってきているところもあるので次の段階へ進みたいと言っていました。その中で必要になってくるのは、島民だけではなく私たち学生の意見だったり、継続した支援だと言っていました。こういった学生の継続的な支援を実行するために、学校内にボランティアセンターを設けたり、学校主催のボランティアサークルを作ったりするのはどうでしょうか。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

こういった機会を私たち学生に与えてくれたことに本当に感謝しています。社会人になったらボランティア関係の仕事につかない限りこういったことをするのは難しいと思います。ですから学生のうちにこのような活動ができて本当に良かったです。この活動に関わってくれたすべての人たちに感謝します。そしてこの経験がいつか自分のために、そして誰かのためになっていけばなお嬉しいです。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

まず、私がこのボランティアの参加を決定したのは、友人に誘われてという受動的なきっかけからでした。しかし、行きのバスで、実際の目で被災地の様子を見させていただいて、自分の中で何かできることはないか、という想いが沸々と湧き上がってきました。そして、海岸や山の清掃をやらせていただいて、自分が持っていた被災地ボランティアのイメージとは違っていたのですが、現地の方々とのお話しや、地震や津波が起きた当時のお話を、じっくりと生で聞くことで、自分の中での東日本大震災に対しての現実味や悲しさなどがはっきりと形を持つことができました。それにより、自分たちが本当に何をすべきか、というのがより深く考えられるようになったと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後は、現地の方々とのお話しが私は大事だと思います。私たちは若く、時間もエネルギーもたくさんあると思うので、それを最大限に活かすことで現地の方々に元気を与えられるのではないのでしょうか。語弊があるかもしれませんが、やはり私たちは実際に当時のことを体験していないので、いくら頑張っても現地の方々と完璧に当時の気持ちを共有することはできないと思います。しかし、その当時の体験をしていないことで、現地の方々に底抜けの明るさや優しさをたくさん分けられるのではと私は思います。一緒になって悲しい気持ちを共有し合うのも大事なかもしれませんが、その悲しい気持ちを抱えた方たちを無理なく明るく楽しくしていく、ということを私はしたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

お話し、という点を重視して、私は慰問が良いと思います。私は落語研究会に所属していたのですが、学校や福祉施設などで慰問を行い、その中で落語や、大喜利をやったりしました。笑いは人を元気付けたり、人と人との壁を取っ払って、交流の橋渡しになると思うので、被災地の方々に楽しんでいただけるような出し物が良いと思います。たくさんの方が被災地に足を運んでもらえるようにして、実際に被災地に行き一緒に清掃などをするというのも良いと思うのですが、被災地の方々にゆっくりと楽しんでいただいて、私たちが元気を届けるというのも大切だと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

このような機会を設けていただき、本当に本当にありがとうございます。テレビやラジオなどの自分が受身になってしまうメディアから、被災地の状況を知るのは不可能なんだということにも気付かせていただきました。自分が今回のボランティアで感じたことを、その場限りのこととしないように努力をして行きたいと思っています。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(経済) 学部・(1) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

初めて東日本大震災ボランティア活動に参加しました。行く前に、暑い天气で、大変な作業をしようと思ったのに、そんな大変な作業ではありませんでした。私は震災の後で、日本へ留学に来ました。来た前に、テレビで地震、津波について報道を見て、かなりショックしました。あの時、機会があれば、被災地へボランティアに行きたいと思いました。今度、信行寺の方は私たちがお金を出してくれました。ありがとうございます。

しかし、若者はもっと大変な仕事ができると思います。現地でまだいっぱい廃棄物が山のように積んでいます。撤去することは確かに難しいと思います。大島は観光地として、砂浜と山林の掃除も必要だけど、これより、早く廃棄物を撤去したほうがいいと思います。誰でもゴミがいっぱいいる大島へ行きたくないです。だから、次はまた大島でのボランティア活動があれば、もっと大変な作業を任せてください。

もう一つは、料理は贅沢過ぎだと思います。一年前の被災者に水も贅沢品ということでした。ボランティアとして私たちは、一日の作業をして、疲れたけど、そんな美味しい料理を食べたら、現地の雰囲気を変えました。もっと被災地で本当の生活現状を体験したいです。

それでも、私は自分の目で被災地の状況を見ました。現地の村民の話を聞いて、どんなことがあったもうちょっと了解しました。作業はそんな大変じゃなかったけど、少しだけでも手伝いました。写真もいっぱい撮って、インターネットで友達に大島の様子を示しました。もっと多い人が東北地区の気仙沼市できれいな大島が存在することを伝えたいです。

大島は本当にきれいな島です。復興は時間がかかります。私たちは精一杯努力をすれば、また賑やかな、活力がみなぎる大島が見えると思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

作業だけじゃなくて、被災者の心を治したいです。村上さんから聞いて、いま島の村民の心は津波が追い散らされました。誰でも、2011年3月11日のことを思い出したくないです。島は少しずつ復興をしているけど、島の村民の心はいつ治せるかどうか、分かりません。だから、できるだけ、私たちはボランティア活動で村民に歌を歌うとか、落語とかプログラムを上演することもいいと思います。村民の心からの笑顔を見たいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

学生は春休み、夏休みなど長い休み時間でボランティアのことをしかできないから、他の時間で、何かするも被災地支援できますか。たとえば、子供の日とか、敬老の日とか、学生は色紙か手紙かはがきを書いて、お祝い言葉を被災地へ送ります。私たちは一回ボランティアとして、被災地で作業をしたことじゃなくて、東京にいるでも、被災者の状況も關心しています。

チャリティーバザーを開くことも支援することだと思います。みんな使わないもの、被災地へ送りたいものを集まって、学校でチャリティーバザーを開いて、募金を集まります。

復興はもっともお金を使いますから、できるだけ、被災地に愛心を献じたいです。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

気仙沼市大島ボランティア活動を企画してくださいました。ありがとうございます。被災地へ行って、当地の様子を見て、作業をやって、ちょっと成長したと思います。この機械を提供してくださいました。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティアは、私にとって初めての被災地訪問だった。そのため、ニュースや新聞などを通してしか見たことがなかった被災地に実際に行くことがとても重要なことだと感じた。メディアを通してみるだけでは、わからないことばかりである。がれきは片付けられているが、がれきの山は依然として残ったままであるし、津波が襲った場所にはまだまだ建物が建つ気配はなかった。建っていたとしてもプレハブばかりである。今後、この地がどのように再生していくのかすごく関心を持った。一度津波が襲った場所に、地元の人はまた建物を建てようと思うのだろうか。もし誰も立てようとしなかった場合、この場所はどうするのだろうか。どうなるのかは、私には見当がつかないが、あのままの状態を見ているのはとても心が痛んだ。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のボランティア活動を通して、まだまだ被災地は復興にはたどり着けていないが、がれきの片づけなどは大半が終わっていることがわかった。私にとって、これは意外なことだった。なぜならば、最近メディアでの被災地の報道が減っていたため、被災地の現状を知らなかったからである。これからは被災地の経済復興を行っていくことが重要なのだと感じた。継続的に被災地にお金が出るような消費の仕方をしていきたいと思う。たとえば、東北への旅行などもしていきたい。ボランティアに参加するまでは、遊びで東北に行ってはいけないのではないかという考えがあったが、地元の方たちはとても観光者を歓迎してくれていた。だからこそ、さまざまな地域の人が東北を訪問することによって、経済復興の手助けだけでなく、元氣も与えられるのではないかと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

私たちがすべきことは、被災地の現状を発信することによって、被災地へお金が回ることではないかと考える。そのためには、自分の友人に自分の経験を語って関心を持ってもらったり、文化祭などで写真展などを開くことによって中大生だけでなく地域住民の方々にも被災地の現状や被災者の方々の現在の生活を知ってもらいたい。その上で、少しでも多くの人に東北へ足を運んでもらえれば、被災地支援になるのではないかと思う。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

このたびは、ボランティア活動に参加させていただける機会を作ってください、誠にありがとうございました。今までボランティア活動は、自分にとって敷居の高いものでしたが、すべての面においてサポートをしてくださったおかげで、一步踏み出すことができ、また大変貴重な体験をさせていただくことができました。現場に行かなければ、感じる事ができなかったものがとてもたくさんありました。それをより多くの人たちに伝えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

法学部・3年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

大島に行くまでは瓦礫の撤去など大がかりな活動を行うと思っていたので、海岸や山の清掃活動を行ったのは物足りなく感じた反面、復興が進んでいることの証であると感じた。また、海岸や山の清掃活動は私たちでも出来るボランティア活動であり、こういった支援の形もあるのだと思った。大島を元通り、あるいはそれ以上の状態にして復興するには清掃活動などの私たちでも出来ることを多くの人が継続的に行わなければならないと思った。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回、被災地を訪れて、瓦礫などがまだ山のように残っているものの、ある程度の復興が進んでいるように見えたので、次は商業施設の再開などにより観光業に力を入れるべきであり、そのために私たちができることは施設再開のための募金活動を通して間接的にお金を集める、また被災地の現状を伝え、多くの人に旅行でもボランティアでも被災地を訪れてもらい直接的にお金を被災地に集めることが考えられる。清掃活動のようなボランティアは終わることがなく、また継続して行うことが大切であるので今後も自分でもできる身近な支援をしたい。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回の大島への支援として考えると、そもそも大島の存在を知らない人たちに向けて、私たちにもできることがあること、また大島の良さを伝えるためのボランティア報告会を開く。生協で「大島フェア」などを開き、売り上げの一部でも大島に還元する。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

被災地を実際に訪れることで、メディアからは伝わってこない現状を自分の目で見ることができ、被災地はまだ私たちの力を求めていることを実感しました。被災地支援はまだ必要であることを多くの人へ伝え、自分にもできることがあるんだということを知ってほしいと思います。貴重な体験の機会を企画してくださり、ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(総合政策) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回のボランティアで一番よくわかったことは大島の現状です。よい面ではがれき撤去がだいぶ進んだこと、悪い面では島民の中で内部分裂が起きていることです。いまだがれきのある田んぼや民家があるにもかかわらず、内部分裂のせいでそういったところは放置され、すでにきれいに保たれている観光地での落ち葉ひろいや小石集めといった清掃活動になってしまったことは少し残念でした。ボランティアとしては授けられた仕事を丁寧にこなすのみと思って活動してきました。しかし、救いの手を求めているところがほかにあると思うと複雑な気持ちになりました。必要なところに直接支援をしていくためには被災者に直接話を聞くしかないのだと実感しました。今回はそのことを学ぶことができてまた一つ今後の気仙沼大島の支援の在り方を学びました。そのほかには、今回のボランティアでは参加者同士でミーティングやディスカッションをしてよりよい活動につなげる努力を学生主体で行えたことがよかったことだと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のボランティアでわかったことは、がれきはほとんど取り除かれていて、あとは基礎をはがして都市計画を練り直し、新たな街を建設することが目指されていると感じました。そのためには被災地の経済が潤うように、被災地の作物を消費することが一番身近で継続できる支援方法かと思います。私は料理が好きで家族にもよくふるまうことがあるので、買い出しに行った際などには被災した県の食材を選んで買おうと思います。もちろん、今後も被災地へ赴き、何らかの形でボランティアを継続していこうと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

学園祭でのブース出展です。大島と聞いてもどこの島だかわからない人がほとんどだと思います。まずは認知度を上げて今後の発展に生かせるように学園祭で大島をフィーチャーしたブースを出すのは被災地支援につながるのではないかと思います。大島ではいま椿を使って地元産業や観光を盛り上げようとしていて、椿を使った名産品として椿油を売り出しています。泊まった宿のオーナーさんは椿カレーも名産であると教えていただきましたが、大島の椿カレーとして売ってもカレーの中の油だけでは大島産と謳うには少なすぎるかと思いました。そこで大島産の野菜を使った椿油の天ぷら丼や、椿油を使った石鹸販売、椿油のキャンドルづくりなどのブースなら、楽しみながら大島の名産を知ってもらうことができるのではないかと思います。

4. 今回、企画していただきました浅野代表に、一言お願いします。

今回も私たち学生にご支援ありがとうございました。浅野先輩をはじめとして、信行寺関係者のみなさん、基金に寄付して下さった皆さんに本当に感謝しています。私は昨年も信行寺さまのご支援で大島に行かせていただきましたが、そのころとはまた違う大島の変

化にも気づくことができ、今後どのように大島と関わっていくべきか方向性が見えてきたように思います。気仙沼大島でのプログラム自体は終了しましたが、この経験を自分のものにするのはこれからだと考えています。これからも今回参加したメンバーと協力しながらイベントを企画し、被災地を盛り上げていこうと思います。ご支援本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(1) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

初めてのボランティアだったため、事前に様々なことを想像し、行く前はとても緊張していた。テレビでみるような震災直後の様子を想像していたため、被災地を実際に訪れた直後は片付いているなど感じた。しかし、同時に震災から 1 年半も経っているのに、ゴミはきれいにまとめられているが、片付いていないことに驚いた。活動内容である海岸清掃と草刈り手伝いは、比較的穏やかな雰囲気で行けたと思う。海岸は地元よりはるかにきれいで、片付いており、想像していたよりもきれいな状態だった。清掃中には、大島の方々に震災の時の様子や、大島の暮らしについてお話をうかがい、ボランティアとしての活動は減ってきているが、続けることに意味があると感じた。大島の方々とのお話の中で、次はどんなボランティアの方々がくるのか楽しみにしていると聞き、清掃や片付けだけでなく、こうしてお話することも大切なのだと思った。ボランティアに行く前は、緊張して少し躊躇していたが、行ってみるとためらいもなく、次も行きたいと思うようになった。やはり、なにをやるのにも、勇気をもって実際に行動してみることが大切なのだと感じた。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後も、こうしたボランティア活動を継続していくべきだと思う。活動内容は大きなことではなく、ちょっとしたことでもいいと思う。例えば、今回のような、海岸清掃を続けていくなど、ボランティアのきっかけになるようなものでいいと思うので、続けていくことが大切だと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回のボランティアの報告会

今後につなげていくためにも、報告会はあったほうが良いと思う。今回の活動内容や、大島の様子を図書館の入り口などに展示し、多くの人に知らせた方がよいと思う。展示を見ることで、ボランティアに興味を持つ人や、大島に興味を持ってくれる人が 1 人でもいてくれたらいいと思う。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

貴重な機会を与えて下さり、ありがとうございました。今回のはじめてのボランティア活動を通して、自分たちはたまたま震災にあわなかっただけということや、今後もボランティア活動は継続していくことが大切など、様々なことを考えさせられました。自分のできることをこれからも考え、ボランティア活動を継続したいと思います。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(大学院経済学研究科)・(1)年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は仙台市出身ということで帰省の際に何度か被災地へ赴き、また昨年の本ボランティアの参加も含め、より一層、復興・復旧というものが着々と進んでいることを実感できました。(大島において昨年と比較する限りでは、道路や家々のゴミや瓦礫が相当片付いていました。)しかし、日常では主にメディアを通して被災地の状況を知ることが多いのですが、そこではあまり触れられず、まだまだ支援が必要な地域が数多く存在しているということを、強く意識すべきだと思います。

また、昨今では芸能人やメディアを通して『絆』だとか『がんばろう、日本(東北)』という言葉をよく耳にしますが、私は個人的に、それらは非常に軽々しく、抽象的かつ曖昧な言葉にしか感じられません。少なくとも、被災地での惨状を目の当たりにした後では、とても「がんばろう」などという言葉など、かけられる気がしません。そのような言葉を発する前に、まずは現地に行ってみろと言いたいくらいです。本ボランティアにおいては、現地の方々のお話などを通し、そのような曖昧な世界ではない、現実を直視できたことが何よりの収穫でした。

さらに彼らは、身内を含む多くの人々が亡くなり、被災し、また自身も困難な生活を強いられてきたはずで、思い出したくもない様々な記憶もあったことでしょう。しかし、それにもかかわらず、私たちに対し気丈に振る舞い、一部始終を真剣に語っていただきました。それに対し、親に学費を払ってもらい、サークル活動やアルバイトなどに取り組む私たちの日常は、何一つ不自由の無い恵まれた環境にあることに感謝しなければならないと改めて実感しました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

私たち学生という身分では、一人ひとりの力量に限界があるので、大がかりなことではできないのも事実です。しかし、私たちがそれぞれ現地で見聞きし、感じたリアルな経験を、周囲の人間に伝えることは十分可能であり、より多くの人々に認知させることができます。私たちの世代では SNS (ツイッターやフェイスブックなど) の活用が盛んであり、一人でも多くの同志を増やすこともできるでしょう。

私個人としては、幼い頃から東北で育った経験から、まだまだ世の中に知られていない東北の地域(観光・食文化・自然など)を多くの人に紹介していきたいと考えています。それは一つのきっかけに過ぎないかもしれませんが、そこから現地へ赴いてもらえば消費により経済の活性化に貢献できるだけでなく、日常の買い物などでも現地産の商品購入の意志へと繋がることも可能かと思われます。(ちなみに、本ボランティア第2クールのメンバーに問いかけた際、今回初めて東北地方を訪れたと答えた者がほとんどでした。)

また、今後も継続的な活動を行うためにも、授業期間中であろうと自費であろうと、ボランティア募集の機会があれば、積極的に参加することが次の目標です。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

活動中のミーティング内でも挙げた話ですが、まず多くの人に現地を認知してもらうということで、学内で報告会や写真展などを企画できればと思っています。いずれも昨年の実績として行われましたが、少なくとも私の周囲でそれらイベントが行われたことを知っている者はおりませんでした。したがって、企画するにしても告知の方法も上手く考えなければならないと思います。（その具体策は現在模索中です。）また、せっかくの機会なので学内のみならず、外部の人間が多く来場する大学祭でそれらイベントを催すことで、より広い発信ができるのではないのでしょうか。現在、今回参加したメンバーで近日中に集まり、その具体的な企画をしようという話が挙げられているところです。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

この度は、昨年に引き続き私たち学生に大変貴重な機会を与えてくださりまして、本当にありがとうございました。本来、ボランティア活動というものは自発的に行動し、かつ自費でそれぞれ現地へ赴くものです。しかし私たちは学生という立場でもあり、学業や予算制約などという点から、なかなか個人レベルでの参加というのは難しいものです。そうした垣根を取り除いていただいたことにより、何の不安要素も無く各自の意志一つだけでボランティア活動に取り組むことができました。

今回、私たちの活動が、ご支援いただいた方々の期待に十分応えられる内容だったかということに関しては判断が難しいところですが、それでも他の学生には得られない経験をし、また、恵まれた環境で生活をしている私たちにとって新たな価値観を享受できたことについては、胸を張って帰京することができるかと強く感じることができました。

最後に、本ボランティアを企画して下さった代表の浅野様はもとより、私たちの活動を4日間サポートして下さった谷岡様、安田様、細江様、滞りなく無事に活動を終えられたこと、深く感謝しております。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

このボランティアに参加させていただいたお陰で、被災地の状況を生で知ることが出来、普段から災害対策をしないといけないと再認識しました。それ以上に、特に信行寺スタッフ、椿荘、観光協会、中央大学学生部の皆様のお陰で貴重な経験が出来たことを心より感謝の意を申し上げます。このボランティアで一番感じたことは、「人々の温かさ」です。世代が異なっても温かい声掛けや挨拶をして頂いて、とても嬉しかったです。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地の方々は、まず地産地消をお願いしたい。そしてもっと自分の自治体を好きになって欲しい。私たちは、被災地の農産物を積極的に食べていただく為に、東京などの大都市圏内に露店など並べ、もっと認知させるべきだと考える。また、大学以外にも学生が立ち上げたインカレサークルにも被災地ボランティアの募集がかかっている為、積極的に参加すべきだと考える。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

2. の答えと重なる点が多いが、「認知」がとても重要と考える。一般的に教養がある程度ある社会人や学生でも、気仙沼という地名は知っているが、大島という地名は知らないと思う。つまりもっと広報活動を努めるだと考える。駅や学校など人が集客する場所に工夫を凝らしたチラシを貼ることで認知が深まると考える。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

貴重な経験をさせていただきありがとうございます。お陰で視野が広がり、自分に何が出来るか漠然と考えだったのが具体的な考えが持てたと思います。この経験を生かし次につなげていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私が「被災地ボランティア」と聞いてイメージしていたものは、震災以降メディアで報道されていたような悲惨な状況下での瓦礫の撤去などでした。しかし、実際は地元の方々や多くのボランティア参加者のみなさんのご尽力により大島は想像以上に片付けが進んでおり、山積された家具や自動車、衣類等の山を拝見するまでは本当にここにあの恐ろしい津波がやってきたのだろうかと感じるほどでした。

私たちが協力させて頂いたのは海岸清掃や草刈りといった作業で、(このような言い方はふさわしくないのかもしれませんが)初めはこれで私たちはお役に立てているのだろうかと考えながら作業していました。そこでふと頭に浮かんだのは、初日にお話を聞かせてくださった村上さんの言葉でした。

「震災で 100 からマイナス 100 になったのが、今やっと 0 に戻って、これからさらに 100 に戻さなければならない。」

この言葉を思い出して以降、私たちは 0 から 100 にするためにご協力できているのだと考えることができ、充実して作業をすることができました。

そして、少しでも早く大島の地にたくさんの人が旅行に来られるように、今後もボランティアに参加し、100 とは言わず、それ以上になるように協力を続けていきたいと思いました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今後私たちがまずすべきことは、この 4 日間で目にしたことや活動内容について、自分が撮った写真などをもとにボランティア参加者以外の家族や友人に伝承することだと思っています。震災から 1 年半が経過し、次第に被災地の現状がメディアで取り上げられなくなってきた今、現状を伝えることができるのは私たちのようなボランティア参加者ではないでしょうか。伝えることで、現状が把握できるとともに、被災地では今何が求められているのかがわかり、さらにボランティアに参加してみようと考えてくださる方もいらっしゃるかもしれません。もちろん、伝承方法は自分の口から発信することのみではなく、Twitter や Facebook、Ameba ブログなどを活用したり、活動報告会を開催してみたり、活動中に撮影した写真を集め、写真展を開いてみることも 1 つの伝承方法だと思います。

また、今回に限らずボランティアに参加すること、未参加者へ参加を促すことが重要だと思います。被災地の方々には現地を自分の目で見て、何か感じてほしいものがあるはずで、私たちは前述のような「伝承」をすることによってその手助けをするべきです。

そして、最後に、震災の爪跡について語るだけでなく、大島の自然の美しさや地元の方々の優しさなど、大島の良いところを発信していきたいと思っています。そうすることで、たくさんの方に大島へ旅行に行ってもらえるようになり、きっと元より活気溢れる大島になるでしょう。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

まずは、2. で前述した通り、事後活動として「伝承」をすることが第一だと思います。また、観光地として活気を出すために宣伝活動をするといいいかなと思います。それこそ、村上さんがおっしゃっていたように、大学の生協で大島への旅行パックを提案してみたいです。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

このような企画、またボランティアに必要な交通費・宿泊費の負担をしていただき、本当にありがとうございました。私は今回が初めてのボランティア参加となったのですが、自分の目で見えて感じたものや4日間の活動は、私の中で大きな糧となりました。私は多額の経済的な支援というものは出来ませんが、ボランティア活動に参加したり、その事後活動をすることで、被災地の役に立てればいいなと考えています。今回は、本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(2) 年・学籍番号

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私はこのボランティア企画を知ってから、宮城県の「大島」を知った。行ってみると自然とともに生活が成り立っている島で、海をはじめ山、植物など全てが美しかった。しかし、その海の回りにはいくつもののがれきの山があり、山には地震・津波後に発生した山火事の跡が見られた。2 日間のボランティアを観光協会の方々と一緒に活動させていただいたが、そのときぱきとしたすばやい行動を見たり話をしたりする中で、この自然豊かな大島を観光業で復興させていきたいという思いが強く感じられた。

椿荘の村上さんや島の住人である小山さんによる話はとても心に響いた。「昔に記録された島を 3 分したという津波の言い伝えは本当だった。生死は紙一重で、その時の選択の積み重ねの結果だった。3 月 11 日に妊娠が判明したが、正直ムリかなと思っていた。今すぐしたい行動があったけれど、自分が死んだら家族に迷惑をかけると思い断念した。山火事が発生したとき、もう終わりだと思った。危機が迫っても生き残る奇跡の人になりなさい。回りの人に感謝しなさい。お世話になった人に直接恩返しができなくても、まわりにまわってその人に感謝の気持ちを伝えることができる。この世に生まれてきたということは何らかの使命を担っている。」言葉一つ一つが心に残り、この貴重な時間とお話を決して忘れたくないと思った。そして、家族や友人に直接伝えたいと思った。東日本大震災がいったいどれほどのもので、どれだけの人心にさまざまな影響を及ぼしたのか、被災された方々の気持ちに寄り添ってあの日のことを振り返った。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地支援としては、自分の住む地域でできる活動（募金活動、物産展開催、報告会開催など）と現地でしかできない活動（仮説住宅訪問、清掃活動、イベント開催など）の 2 種類があり、どちらも平行してすべきものだと思う。

その中でも時間や体力、知力そしてさまざまなネットワークを持つ大学生は被災地に足を運んで活動をする必要があると思うし、活動したいと思う。高校生までの学生はボランティア活動内容の制限が多い上に 1 か月ほどある学校の休業期間も宿題や受験勉強、部活動に追われている。また、社会人にはまとまった休みがないため現地で活動するのは困難だと思われる。そんな中で大学生は、成長するための時間がたっぷりあり成長の余地も無限にある。

被災地域のニーズにあわせたり、時には自分達で考えた企画を持ち込んだりして実際に被災地で復興支援活動をすることで助けを必要としている方々を支えてあげたいし自身も人間的に大きく成長したいと思う。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

自分の住む地域でできる支援

・募金

- ・物産展（特産品の販売とともに、それを使った B 級グルメやスイーツも販売する）
- ・報告会（各地域の現状やそこに住む方の話を報告し、支援活動を呼び掛ける）
- ・文通、メール（回りの人に相談しにくい悩みをきき、やりとりする）
- ・観光案内（旅行のため被災地から首都圏にきた方々に観光地を案内する）

被災地でできる支援

- ・学習支援（学生に対して大学生が勉強を教える）
- ・体力作業（体力がなくてできない活動を大学生が代行する）
- ・講習会（手芸など高齢の方が継続して行い完成する作品を提案する）
- ・交流活動（仮設住宅や会議室などで被災者の方と話をする）

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

このような貴重な機会を設けてくださり本当にありがとうございました。

安田さんからこのボランティア活動の費用創出のために募金してくださった方々の気持ちや様子を伺い、その方たちの思いとともに活動させていただきました。もしよろしければ、私たち夏期大島ボランティアメンバーで、その方々に活動内容と大島の素晴らしさ、そして感謝の気持ちをお伝えしたいと思っております。ぜひよろしくお願いいたします。

大島の大自然と島民の方々の暖かさに触れながらボランティア活動ができ、大変嬉しく思っております。島民の方の 3.11 以降の生活や気持ちの変化を耳にし、東日本大震災がどれほどのものであったのかあの日のことを改めて考えました。

私は今後も被災地へ出向いてボランティア活動を続けていきます。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(文) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

最近のメディアでは東日本大震災の事が風化されてきています。今思えば、私も忘れかけていた一人かもしれません。きっと風化されている原因は主に継続されていないという事だと思います。風化されないためにも継続が大切だと思いました。大島において海岸近くや平地を見れば津波の恐ろしさが残っている状態です。しかし観光名所は比較的綺麗になっています。さらに山の方に行けば一見普通の田舎のように見えます。次の段階に進んでいる被災地、そして明るい島の人々にこれからも沢山の困難を乗り越えてほしいと心から思いました。そのためには全国の協力が必要です。一人でも多くの方が協力できるように私たちにできることを考えなければなりません。

又、現地の人の話を聞いたのは本当に貴重な体験でした。当時の状況を詳しく聞きました。東京でも交通網が乱れ、モノの大量買いや節電などがありました。たまたま私が東北にいなかっただけで数日経てば、元通りの生活をしていました。しかし現地では大変な事が起こっていたのです。命がどれだけ尊いものなのか。様々な状況下でつらい思いをしている人は沢山いるのです。ただメディアの情報だけを聞いていただけで東北のためにもっと早くからいろいろな事が出来たのではないかと、悔しい気持ちがあります。

これからも日本は大地震が予測されています。自身が被災者になる前に様々な備えをし、違う土地で災害が起こったらボランティア団体に入るなりいろいろな方法を考え、早くから支援活動に取り組みたいと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

SNS を利用し現地の事を伝えます。募金をし、またボランティアに行きたいです。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

ボランティアに行った人だけでも報告会をしたいです。そしてその中で繋がりを広げ、ボランティアに行く機会を増やしていきます。又、ボランティアグループが中央大学内にあることを私は知りませんでした。そのため中央大学のボランティアグループそれぞれ紹介できるホームページを作成したいです。そしてもっと情報を学生に伝える機会を増やせば、支援をしたいという人が沢山集まると思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

貴重な体験をさせて頂きました。これからも様々なボランティアに参加したいと思います。いろいろな事を考えたり感じたりするきっかけを作って頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法)学部・(3)年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

今回、初めてボランティア活動に参加し、実際に自分が現地に行き見聞きして感じるこの大切さを痛感した。やはり、テレビやラジオで人伝いに見聞きすることとは全く異なる世界で、自分が想像していたものを遥かに上回る惨状がそこにはあった。そして、被災された方の話を聞いて、こうした現実をより身近なところに感じられた。

ボランティア活動をこれからも継続し、今回のボランティア活動を通じて得たものを今後役に立てていきたい。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回訪れた大島はやっとゼロの状態へ戻り、次はゼロからもとあった状態ないしはどれ以上のものをつくり上げていく段階へ入っている。そのため、経済的な支援を行うべきだと感じた。ボランティアという名目だけで訪れるのではなく、旅行や遊びに行くだけでも大島の復興へ近づくと感じる。また、本来の観光地としての機能を取り戻すためにも、ボランティアとしてできることは、大学の学祭などで報告会や写真展を開き、大島の現状と観光地としていかに優れているかという点をPRし、少しでも大島に興味を持ってもらい、旅行者を増やす活動をしてみたいと感じた。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

2でも書いたように、現在では経済的な支援が必要だと感じたので、実際に被災地に訪れてもらうことを考えなければならない。そのためにも自分たちボランティアが出来ることは、自分たちが実際に行き見て聞いて感じたことを伝えることだと感じる。その内容もマイナスな面（被害の状況等）ばかりでなく、プラスの面（観光地としての側面）も多く伝えていかなければならない。そのためにも、大学の学祭での体験報告会や写真展などを行いたい。そして、旅行者を増やすためにも、被災地の宿舎とも交渉を行い、学生向けの旅行プランをつくり、実際に学内の生協で商品として扱ってもらうなどしてみたい。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

この度は絆基金を利用して気仙沼市大島へのボランティア活動に行かせていただきありがとうございました。自分自身ボランティア活動に参加するのが初めてで、多少の不安や期待もありましたが、そこには自分の想像を遥かに超えた世界が待っていました。他では体験することのできない貴重な体験をすることができました。今後もボランティア活動を継続したいと率直に感じ、また、この体験を今後の人生に少しでも役立てられればと思います。本当にありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(文) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は今回の気仙沼市大島でのボランティアが初めての被災地でのボランティア活動でした。

ボランティアの活動以外にも大島への移動中に立ち寄らせていただいた南三陸町や気仙沼市鹿折地区の市街地が無くなってしまっている様子は何度もニュースなどで見ていましたが、実際に現場で見ると集積されている瓦礫の山や流された建物の土台が草に覆われているなど一年半前まで町があったことが信じられないという驚きがありました。

しかし、大島で実際に行ったボランティア活動は事前に予想していたような瓦礫の撤去などではなく海岸の清掃や山の草刈りなどでした。始めのうちは正直予想していた作業と違ってこんな作業で本当にいいのかという気持ちを持っていました。しかし、その後地元の方達から伺った震災直後の状況や今の大島の現状等の話を聞いて自分の考えが被災地でのボランティアという先入観の入った自分勝手な考えであり、実際に自分たちがやらなければならないのは現地でお世話になった人達が手伝って欲しい事を手伝うことであると感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

ボランティア活動後の反省会でも指摘されていたことですが基本的に自分たちの被災地へのボランティアは単発的なものであり、被災地から離れた場所に住んでいる人には継続して行うことが難しいことであると思います。

しかし、被災地に対する支援はボランティアだけではありません。東北には素晴らしい特産品が多くありそれらを買うことはどこでもできます。また、多くの観光名所も有るので長期休暇などを利用して旅行に行くことなども被災地に対する支援になると思います。

私でも東北の物産などを買うことや、少額でも寄付を継続して行うことが出来ます。また、今回のボランティアの経験から被災地でもすでに普通の生活ができ観光などもできるので友人を誘って長期休暇中に旅行に行こうと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

上記のように観光や特産物を買うことも支援になると思いますが、今回の自分たちの経験をこれから被災地でボランティア活動を行おうとしている人たちに伝えることが必要だと思います。

私は今回のボランティア活動が初めてでしたが事前に必要な物などの情報をガイダンスで知ることが出来た上に信行寺さんのご支援のおかげで金銭的な心配もしなくて済みました。しかし、多くの場合つまり個人や少人数でボランティアを行う場合はこのような事前の情報は自ら調べなくてはいけない上に自費での負担も多くなります。結果として、このような要素によってボランティアに興味があるものの二の足を踏んでしまう人がたくさんいると思います。

また、被災地も場所によっては復興の進行状態も違います。今回のボランティアの参加者の方の中にも以前行った被災地は大島よりも復興が遅れていて風呂などもなく自前で作るしかなかったとおっしゃっていました。

このように、一言で被災地といっても準備するものや必要な金銭は変わってきますし各々の参加者でも違うと思います。そのために活動報告などをする場合には写真なども必要ですがそれより自分がどのような準備をしてボランティアに行き何が足りなかったかという事やどれ位の金額が必要であったかなどの情報をもっと具体的に記載を行い一回限りの活動の報告とするだけでなく次のボランティアの指標として役立てるようにするべきだと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

私は被災地でのボランティアに以前から興味があったのですが必要な物や現地でどういうことをするのか分からず二の足を踏んでいました。しかし、今回の全面的な援助を行ってもらえたことで被災地にボランティアに行く決心がつき、実際に行うことが出来ました。

本来ボランティアは自分から行動を起こしてやらなければならないものであると思いますがその後押しをしていただいて非常に恵まれた環境でボランティアを行えたことを非常に感謝しております。ありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

被災地ボランティアの活動は必要不可欠ではあるものの、ボランティアの仕事内容については、かなり変化してきているということを強く感じた。そして、活動内容については、おそらくまた一年ほど経過すれば変化するのであろうとも感じた。その内容の変化に我々ボランティアは適応しなければならないのであろう。ただ、今回のボランティアで残念であったことは、大島の個人宅でのボランティアがニーズがあるにもかかわらず、“大人の事情”で行えなかったことである。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

我々東京に住んでいる人は被災地に入っていくボランティアといっても短期的なことしか行えず、長期的な支援は難しいであろう。ならば、被災地に入らずにできる被災地支援を何かすべきだと思うし、したいと思う。例えば、被災地の食品をなるべく買うことやどこか旅行に行くならば被災地に行くなどであろうか。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

最終日に意見として出た大島椿カレーを白門祭で作ることや写真展の実施、被災地に関する現状を知らせるビラを中大内で配ることや大島に来るボランティア同士での連携プログラム、およびツイッターでの広報などは実現できそうなアイデアではなかろうか。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

通常ならば数万単位でかかってしまうボランティアの費用を中央大学が半額補助していただけるだけでも大変ありがたいにもかかわらず、本プログラムを全額補助をいう形にさせていただいて本当にありがとうございます。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は今年の3月にも大島でのボランティア活動に参加しました。その時清掃した海岸は、既に大きな瓦礫は撤去されていましたが、細かい瓦礫が散乱している状態でした。今回の活動場所は前回とは異なっていた為、どの程度瓦礫の撤去が進んだのか半年前と比較することは出来ませんでした。しかし、ごみの分別が前回の時よりも緩和されていたことや、村上さんのお話や島全体の様子などから復旧作業も終わりにさしかかり、復興の段階にあるということを感じました。

作業内容は想像とは異なり、龍舞崎の草刈では自分たちのためにわざわざ活動場所を提供していただいているような気がしました。また、まだ片付いていない家もあるが私たちがそこへ行くことはできないという話を耳にした時、やはり学生の私たちに出来ることは限られており、無力さのようなものを感じました。しかし、社会人になると、特に被災地から遠く離れた地域に住んでいる場合、このような活動をする機会を設けることが難しくなってしまいます。学生の間にも長期休暇などを利用して被災地を訪れ、新聞やテレビの報道と現実との間にどの程度ギャップがあるのか自分の目で見て確かめることは必要であると思います。

復旧が終わり、復興の段階に来ているといってもそこからが大変なのだと感じました。震災前にお店で賑わっていた海岸の写真などを見ると、本当に何もなくなってしまったのだと実感します。ここから元の状態に戻すことは非常に時間がかかり難しいことであると改めて感じました。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

震災直後はボランティアとして被災地を訪れる人が多かったが、現在ではその数が減ってきているため、観光客で賑わうように被災地の経済の復興を支援する必要があると思います。今後も被災地をボランティアとしてだけでなく、観光客として訪れたり、被災地で生産された物を購入したりして支援していきたいと思います。

また、震災によって癒えぬ傷を負った子供たちの心のケアも必要であると思います。定期的に子供たちと遊んだり、学習支援を行う場を設けることが必要であると思います。

3. 被災地支援へのアイディア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

- 写真展を開催し、より多くの人に被災地の現状を知ってもらう。また、その地域独特の美しい景観を伝え、観光客として訪れてもらえるようにする。
- 陸前高田市公認の NPO 団体では、子供に夢を与えようとキャラクターを作り、グッズ販売などを行っている。このように、被災地の未来を担う小さな子供たちが喜ぶ企画を提供する。（キャラクターとの握手会、グッズ販売など）
- 大学内あるいは学外で毎月募金活動を行う。何を目的として行い、集めたお金がどのように使われるのか明確にした上で行う。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

大島でのボランティア活動を企画してください、ありがとうございます。何か活動に参加したいと思っても費用の面から諦めざるを得ないことが何度もありましたが、今回全額補助して下さったことにより参加することができました。今回の活動を通して考えさせられたことや、皆で議論したことなどを忘れずに今後自分に出来ることを考えていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(1) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

学校で募集しているボランティアに初めて参加させて頂きましたが、被災地のボランティアらしいことができなかつたのにそれでも学べるがたくさんありました。地元のみなさまがボランティアで来た私たちを温かく迎えてくれたり、作業中や開いてくださった島民の方々からのお話で震災当時の話を生でたくさん聴かせていただいたりと貴重な体験をさせて頂きました。自分1人ではなかなかいくことのない宮城県大島、ボランティアでもなんでもいいので行く機会1度作ってまた行ってみたいと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

今回のボランティアのミーティングでも出たように、TwitterやFacebookなどのメディアによって今回自分たちがやってきたこと、学んできたことを情報発信して自分たちだけではなく他の人たちにもボランティアそのものに興味を持ってもらったり、自分の友人に声をかけてボランティアに誘ってみたりするべきだと思います。また、自分たちもこのボランティアへの意識をもっともっと高めていくために、他のボランティア団体などと報告会や討論会をして、そこからともにボランティア活動の輪を広げていきたいです。そうすれば自分にも交友関係が広がるなど一石何鳥にもなっていくこともできます。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今の時期になってくると被災地支援をあまり大々的に募集しているところは減ってきているし、信行寺さんの言っていたように金銭的な面での支援が大事だということもあります。また、個人宅の方もまだまだ普及に至っていないところはあると思いますが、そこも「自分の家に知らない人なんか入ってほしくない」などのプライベートに関わってくるところもあります。そんな私たちが今できる活動として出来ることは少ないかもしれませんが、しかし、少ないからと言って何もしないのは違うし、かといってやりすぎもただの迷惑にしかならないかもしれません。少し違うかもしれませんが、とにかく大事なのは被災地の方々と交流関係を築いていくことが大事だと思います。たとえば手紙を出してみたり、もう1度同じところに被災地ボランティアに行くなどで少しでも1回だけの関係というのをなくすことが大事だと思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

浅野代表、今回気仙沼大島地区ボランティアの企画をしてくださってありがとうございます。自分が被災地に今一度目を向けなおすきっかけ作りにもなりましたし、実際に今の被災地を見て1年半たった今何が必要で何が大切なのか少しばかり理解することが出来ました。これから、関東でも被災することがあるかもしれませんが、その時の心構えにもつながることが出来ました。今後、また企画があった時、参加の一声をかけてくださるとうれしいです。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(商) 学部・(1) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

かなり復興が進んでいたなということを感じました。海岸の清掃、龍舞崎の草刈りを今回させていただきましたがどちらも被災地のボランティアという感じではありませんでした。これはそれだけ現地の復興が進んでいるのだという証拠だと思います。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

経済支援と現地のことを知ってもらうことが大切だと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

物産展を開きたいと思います。人通りの多い所で現地の特産物を売ります。今回活動を行って経済的支援が求められているということがわかりました。物産店を開き特産物を売ることによって現地のことを知ってもらえるだけでなく、リピーター獲得にもつながると思います。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

貴重なチャンスをくださって本当にありがとうございました。今回感じたこと、体験したことを忘れずに、これから何事も頑張ろうと思います。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(総合政策) 学部・(2) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

昨年参加した時よりも、復興はかなり進んでいると感じた。砂浜などの観光地は十分機能するレベルだが、放置されたがれきや土台のみ残ったままの民家など、場所によってギャップを感じる部分もあった。もっと人手がいる作業をするチャンスだったのでは、とも感じた。

2. 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

実際に被災地に行かなくても、できることはあるのではないかと。募金や、ボランティアをして感じた事や被災地が必要としていることを周りの人間に伝えることなどは自分がすぐに行えることだと思う。また、新聞やインターネットで情報を得て、今後も大島を追っていきたい。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

今回大島でのボランティアに参加したメンバーで、白門祭で出し物をする。写真展や特産品・ツバキ油を使った料理の販売など。このようなボランティアが実施されたこと、メンバーがボランティアで得たものを発表する良い機会ではないだろうか。白門祭でできない場合、普通の日に図書館下など写真展のみ行うのも良いのではないかと。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

昨年の夏もボランティアに参加させていただいたのですが、1年経過して被災地の復興が進んでいることを実感しました。しかしがれきの処理や観光客の誘致など、必要なことはまだ多く残っています。今後被災地のために何ができるかを考え、実行していきたいと思えます。貴重な体験をさせていただき、どうもありがとうございました。

以上

夏季気仙沼市大島でのボランティア活動 活動レポート

(法) 学部・(3) 年

1. 今回のボランティア活動を通して感じたことを記入してください。

私は以前3月にも学生課主催の春季東北ボランティアに参加し、気仙沼市大島に行きました。その時も海岸清掃をし、また漁業のお手伝いをさせていただきました。3月の時と比べると、作業した場所が違ったからというのかもしれませんが、落ちていたゴミの量が少なくなったと思いました。以前作業したときは漁具や子供の靴、お風呂場のスイッチカバー、食品の袋など人々の生活が窺えるような生活感のあふれたものが多々ありました。以前はまだ復旧復興には程遠いと思っていましたが、今回の活動で大島も一步一步進んでいることが感じられました。

2日目に聞いた小山さんのお話で、街自体は復旧に近づいても人々の心はまだ晴れない人がたくさんいるということに気づきました。小山さんの言葉で「心の区切りがつかない」という言葉が響きました。お気に入りの服ほど傷がついたり、裂けたりしたと悲しそうにおっしゃっており、想いが強くつまっているものほど犠牲になってしまい、被災者の心に更にダメージをあたえていて、津波の激しさと共に、思い出の詰まったものを一瞬で奪う津波の恐ろしさを感じました。最終日に市街地をまわり、震災の恐ろしさを目の当たりにし、実感しました。海から遠く離れているのに津波に流された大きな船が道路を横断している異質な光景を見て、人の自然に対する無力さを感じました。津波による被害がなくてもこのように津波によって凶器となったものによる二次災害で亡くなった方もいるのだと思うと、とても衝撃的でした。大島の瓦礫撤去やゴミ拾いから出た大量のゴミの山を見て、津波によってこんなにも人々の生活を奪ったんだと、表しているようだと思います。テレビなどでは伝わらないことを自分の目で見ることによって災害を身近に感じ、恐ろしさ悲しさを実感しました。

テレビから報道が消え、少しずつ人々の記憶から事実が風化していつの間にか消えている中、小山さんの話は震災に対し、改めて身の引き締まる思いがしました。亀山の火事の跡を見て震災の恐ろしさを感じ、椿の木や海を見て復興の希望を感じました。地域の方々と交流しながら作業することで時に震災当時の話を聞き島民の方々の強さ、絆がみえ、心が温かくなりました。震災から一年半が経ち、人々の暮らしは少しずつ良くなったと思います。ボランティア活動が少なくなったということは復興してきているということ。勿論まだまだ人の手を必要としている所はたくさんあると思います。しかし、絶望しか感じなかった当時から、一年半でここまで来た人々の力はすごいと思いました。復興支援の継続性はいまだ必要とされていること、津波の恐ろしさを忘れてはいけないこと、防災意識を常にもつこと、「学んだ」ことで終わりにはしてはいけないこと。今回の活動でこのような様々な教えをいただきました。次は更に美しくなった町、大島をみたいです。いつきても暖かい大島の方々ありがとうございました。

2 今後、被災地支援のために何をすべきだと思いますか、また、何をしたいですか。

被災地支援のためにすることはまず震災のことを忘れてはいけないことだと思います。一年半がたち、テレビで報道されなくなったことで身近に感じなくなり、被災地に住んで

いない人々は恐ろしさを体験しなかったため忘れてしまった人が多いと思います。災害の恐ろしさを知ってもらうことでさらに募金活動にもつながるのではないかと思います。また被災地の経済を豊かにすることも大事だと思います。復興し始めていることでやはり生活をしていくためには被災地の経済力もあげていかなければなりません。漁業と観光業に力をいれているのならば、そのアピールのお手伝いをしていくべきだと思います。瓦礫撤去などの仕事が少なくなったいま、次のステップへのお手伝いをするべきであり、したいと思います。観光に来ることも、それだけでも一つの復興になり、被災地のためになると思います。

震災で傷ついた人々は去年よりも今年の方が寂しさを抱えているそうです。高齢者の孤独死が増えていることもテレビで報道されていました。落ち着いてきた今は精神的な支えが必要になってきたのではと思います。ただ話を聞き支えるというような精神面、心のケアの助けもするべきなのかなと思います。

3. 被災地支援へのアイデア（イベントの提案や活動方法など）を記入してください。

- ・写真展により活動や大島の現状を伝える。
- ・twitter や facebook など自分たちで発信し、他人へつなげ少しでも被災地に關心を持ってもらう。
- ・中大でボランティア活動した人々かあるいは他大で被災地ボランティア活動をした人々と合同で活動報告会を開催する。
- ・中大の中でもボランティアはたくさんあることを知ってもらう。ボランティアセンターを作るか、もっと人目に付くようなところにポスターをはる。他のたくさんの人に知ってもらえるような仕組みを作る。
- ・被災地に行きたいと思っても金銭の面で厳しい人のために、支援金の募金を中大でする。自分は行けないかわりに行ってほしいと思う人は必ずいると思う。そういう人々のために支援金を集める機会を作る。

4. 今回、企画してくださいました浅野代表に、一言お願いします。

ボランティアに行きたいと思ってもどうやって行けばいいのか分からなかったなか、今回のこの気仙沼市大島のボランティア活動を見つけました。この活動に参加することで改めて震災を身近に感じ、当時のことを知れ、津波の恐ろしさを実感することが出来ました。金銭面でも援助してくださり本当にありがとうございました。大島のために、ほかの被災地のために自分はどうすればいいのかを考え、実行に移すことが自分たちのする役目だと思います。このような活動の機会をくださりありがとうございました。また活動の機会がございましたら、ぜひ参加させていただきたいと思います。

以上